



岷江入楚

花敬里
第十一

特別
~ 12
4604
10



112
4604
10



花散里

大正

五月の... 花散里

小汀文庫

友奈藤原殿女所... 藤原殿... 於藤原殿女所... 花散里

花散里 以平為卷名

極のつとをいへりしに花散里と云ふことよほは
君のつと

秘 卷乃名今より号とす 源氏正臣七月廿一日
木の美地末と同一夏のときしに六月より七月
とありしや 卷のつとみわぬ卷はる木の美地の
よりいふのつとみわぬ 辛日

を 柳巻源氏正臣のつとをいへりしに花散里と云ふことよほは
或抄よりみわぬ 卷のつとみわぬ 源氏正臣七月廿一日

伯耆よりいひしに 卷のつとみわぬ 源氏正臣七月廿一日
のつとみわぬ 卷のつとみわぬ 源氏正臣七月廿一日
京のつとみわぬ 卷のつとみわぬ 源氏正臣七月廿一日
私州人のつとみわぬ 卷のつとみわぬ 源氏正臣七月廿一日
とよみ 卷のつとみわぬ 卷のつとみわぬ 源氏正臣七月廿一日

西 極の花はるる星よりいふに 卷のつとみわぬ 源氏正臣七月廿一日
時集 卷のつとみわぬ 卷のつとみわぬ 源氏正臣七月廿一日

人なれぬ心はこれ物なり

可なり
つら
つら
つら
つら

必源の二重巻月夜のとよめは

又この世つげは

只今世中の

とくは院の

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

ふたつともおほり

これいゝいゝ

あついでとあついでの堪あついで

お月雨のやあついで

かりらるる夜神

なふそられさうらひ

ほをねん 紅粉也

いせんとくしなく 不馴とらるるや

なつ川のりも ね京極川や申何や

ほやうれら栄

秘らいつともかや 委偏 サヤカヤリ

或抄小こ 格くやいつしとらるる

うらまるとあついでいゝいゝ

お和琴 能く個ありらるる

お和琴也

お和琴いあつまいゝなつとあついで

あついでに越若なりらるる

和琴の意とらるる

及なむとなれ不ぬらるる

又うらまると和琴いあつまいゝ

似若よきあついで不ぬらるる

なつ琴と和琴いあつまいゝ

ふらや西条と東の傳信

ほいゝ

お車うらまるとらるる

いあついでとあついでとせえ

うらまるとい風

ゆがやあついでとらるる

天権彦に湯津 柳樹 柳葉とらるる

或言馬津 桂木 柳葉とらるる

あついでとらるる

花散置(おほ)道申いゝ

巴
ふりありし
ふらふらと行
ふらふらと
ふらふらと
ふらふらと

たふらふらと行
けか行つて
け時の餘後より
ふらふらと行
ふらふらと行

はらふらと行
ふらふらと行

源軍とわの門の前
ふらふらと行
ふらふらと行

源

ふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行

源のふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行
ふらふらと行

是のヨリ 桂川に家牛川ワカシ

○郭んとして魚を食はれわねはほほれお月のや

秘内 うれしくもゆ 水がふいふり ちよ 源氏のとりか

ありあまほのつれとよかき 弄日

式抄 四流推充 ころつりせしをこころあわれを

かすらよと息れみ 一人をれしつる

私と年 しくぬ ちよとあり 又月雨をまもれかほ

いとほしにそし海

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

いこころとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

秘 ちよとあり しくぬとすくくを推充

非香時集八平八邊島同守於是悲歎之日受命
天朝遠往絶域万里踏浪遠度弱水是帝世間
則神化秘區也俗非取教是以往來之間自注十
年宣朝杜陵後嗣之更向乎土平然賴聖帝之
神靈僅得恩東今天皇已崩不得復命臣雖
主之亦何益矣乃向天皇後叫哭而目死之群臣
流淚也同守之宮屋連之始祖

袖をむしりてみれば女所のむしりて物候れり
しかりしをいふ

すられども外やかたをみるにわかれし
私桐臺の帝は世舞れりといふまじし出候し

とれけらぬ花散里とあつて似たりなるべし

しらぬもさげ 涙のちりけ

けしきにわたりつるも程のちり

花申川のやりのさるねや

私かりしをいふ

世中のさほす日の月こしりていふは心のみ月此
はあつていふにさるるもさるるもさるるもさるるも
なるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも
かゝるもさるるもさるるも

かゝるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

のかりぬいづるもさるるもさるるも

しりていふ

さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

いづるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

私と私とさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

き此花の香となくく...
梅の花の香となくく... 花散屋とわかれ... 時をわび... 花散屋とわかれ... 時をわび...

梅の花散屋に... 花散屋とわかれ... 時をわび...

花散屋

花散屋とわかれ... 時をわび...

梅の花散屋に... 花散屋とわかれ... 時をわび...

梅の花散屋に... 花散屋とわかれ... 時をわび...

梅の花散屋に... 花散屋とわかれ... 時をわび...

梅の花散屋に... 花散屋とわかれ... 時をわび...

梅の花散屋に... 花散屋とわかれ... 時をわび...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

梅の花散屋に...

秘花散屋のんて家し〜

かほさわ〜

秘花散屋のんて家し〜

原の心〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

秘花散屋のんて家し〜

一 けりたるよとあつていふ

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

一 けりたるよとあつていふとてみる人
一 けりたるよとあつていふとてみる人

己と秘抄、奥に出入りけりたる





